

続している。

硫黄島 (24°45'03"N, 141°17'20"E)

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過した。国土地理院の観測によると、2006年8月以降見られている島全体が隆起する地殻変動は5月中旬頃から、その傾向が鈍化している。

福徳岡ノ場 (24°17.1' N, 141°28.9'E)

5月5日及び20日に第三管区海上保安本部、また6月22日に海上自衛隊が行った上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる変色水域が確認された。福徳岡ノ場付近では、これまでも長期にわたり、火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

阿蘇山 (32°53'01"N, 131°05'49"E (中岳))

中岳第一火口では、南側火口壁の噴気孔からごく微量の火山灰噴出が時々確認された。夜間に行った現地調査では、同噴気孔から火災現象が時々確認された。

中岳第一火口の湯だまりの量は9割で経過し、表面温度にも大きな変化はなかった。

孤立型微動は一日あたり100~180回で推移した。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中6回実施)では、二酸化硫黄放出量は一日あたり300~700トンと少ない状態で経過した。

桜島 (31°34'38"N, 130°39'32"E (南岳))

昭和火口では、5月から6月にかけて37回噴火が発生し、うち14回が爆発的噴火であった。これらの爆発的噴火で、大きな噴石が最長で5合目(昭和火口から500~800m)まで達した。

南岳山頂火口では噴火が11回発生した。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測(期間中2回実施)では、二酸化硫黄放出量は一日あたり600~2,300トンで経過した。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態で経過している。

国土地理院のGPS連続観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入による膨張が続いている。

薩摩硫黄島 (30°47'35"N, 130°18'19"E (硫黄岳))

硫黄岳山頂火口の噴煙活動は依然としてやや高まった状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね100mで推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。発生した地震の多くがB型地震で、A型地震も時々発生した。また、火山性微動は観測されなかった。

口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E (古岳))

遠望カメラ(新岳火口の北西約3km)による観測では、新岳火口から噴煙が時々確認され、噴煙活動はやや高まった状態が続いている。

5月に行った現地調査では、前回(2007年11月)に比べて、新岳火口内の噴煙活動がやや高まり、熱異常域もやや広がっていた。また、古岳では火口内の噴気活動もやや高まっていた。全磁力繰り返し観測では、新岳火口直下での熱的な高まりを示すと考えられる変化が引き続き認められた。

COMPUSSを用いたトラバース法による火山ガス観測では、二酸化硫黄の一日あたりの放出量は、2008年12月をピークに減少している。火山性地震は少なく、火山性微動も5月上旬までやや多い状態であったが、その後は少ない状態で推移した。GPS連続観測では、2008年9月以降、新岳火口浅部の膨張を示す変化が観測されていたが、2009年2月以降鈍化し、6月に入り認められなくなった。

諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

小規模な噴火が断続的に発生し、そのうち爆発的噴火は72回発生した。地震活動は、B型地震がやや多い状態で推移した。

(お知らせ)最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責:気象庁地震火山部火山課 道端秀和)

○教員公募

【東北大学】

1. 募集人員:教授1名
2. 所属講座:地学専攻,地球惑星物質科学講座
3. 募集分野:(1)地球惑星物質科学科の研究分野の一つを中心となって推進して頂ける方で、地学専攻内あるいは他専攻の研究者と協力しながらグローバルCOEのグループリーダー等を務めて頂くことが可能な方、(2)先端的な研究分野において博士課程院生を指導し、若手研究者を世界に送り出すことに尽力頂ける方、が望ましい。
4. 担当科目:理学研究科・理学部,全学教育における

地球惑星物質科学関係の講義・演習・実習等

5. 応募資格：博士の学位を有する者
6. 着任予定：2009年10月1日以降、なるべく早い時期
7. 提出書類：
 - (1) 履歴書（写真貼付，連絡先明記のこと）
 - (2) 研究業績リスト 1論文（査読の有無を記すこと），2著書，3その他
 - (3) 主要論文5編の別刷り各1部（コピー可）
 - (4) これまでの教育・研究実績の概要（2000字程度）
 - (5) 着任後の教育・研究に関する抱負（2000字程度）
 - (6) 照会可能者2名の氏名と連絡先
8. 応募締切：2009年8月15日 必着
9. 書類送付先：〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3 東北大学大学院理学研究科地学専攻事務室 宛
 応募書類送付に際しては、封筒表面に「教員応募書類在中」と朱書きし、簡易書留郵便にすること。応募書類は原則返却いたしません。また、審査において面接を行う場合、交通費は応募者の負担とします。
10. 照会先 東北大学大学院理学研究科，地学専攻，地球惑星物質科学科
 人事選考委員長 吉田武義
 電話（兼 FAX）022-795-7763
 e-mail：tyoshida@mail.tains.tohoku.ac.jp
11. その他：地学専攻は GCOE「変動地球惑星学の統合教育研究拠点」を推進しています。当該講座を含む地学専攻，地球惑星物質科学科の構成員と研究内容は、下記の URL をご参照ください。
<http://www.ganko.tohoku.ac.jp/>
 なお、東北大学理学研究科では男女共同参画を推進しています。URL：http://www.sci.tohoku.ac.jp/ をご覧下さい。
 （上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月22日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 募集人員：教授1名
2. 研究分野：地球化学分野
 微量・同位体分析に基づく地球化学研究を推進するとともに、関連分野の研究者と協力しながら火山や地球内部の物質循環を対象とした研究を実施する研究者を募集する。また、このような研究活動を通じて、次世代の人材育成のための大学院教育にかかわることも期待される。
3. 採用予定時期：平成22年4月1日
4. 応募資格：博士の学位を有する者（外国での同等の学位を含む）

5. 任期について：本研究所の教員の任期に関する内規により、満55歳を超えることとなる教員の所属する組織（分野）の職に任期を定め、その職の任期は5年以内とする。再任については本研究所教授会の承認を得た場合は1回限り可（ただし、「東京大学教員の就業に関する規程」に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない）。なお、詳細については問い合わせ先に照会のこと。
6. 提出書類：
 - (1) 履歴書（市販用紙可）
 - (2) 業績リスト（査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。）
 - (3) 主要論文の別刷り3編程度（コピー可）
 - (4) 研究業績の概要（2000字程度）
 - (5) 今後の研究計画（2000字程度）
 - (6) 応募者について参考意見をうかがえる方（2名）の氏名と連絡先と e-mail
7. 応募締切：平成21年9月14日（月）午後4時 必着
8. 問い合わせ先：東京大学地震研究所地球ダイナミクス部門 本多 了
 TEL：(03) 5841-5725 FAX：(03) 5802-3391
 E-mail：honda@eri.u-tokyo.ac.jp
9. 応募書類提出先：
 〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1
 東京大学地震研究所 庶務チーム（人事）宛
 封書を用い、表に「地球化学 教授 応募書類在中」と朱書きし、書留郵便で送付してください。詳しくは以下の URL をご参照下さい。
<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/recruit/H21/geochemistry210706.pdf>
 （上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月8日送信しました。）

【九州大学大学院理学研究院】

1. 募集人数：准教授又は助教1名
2. 所属：大学院理学研究院 地球惑星科学部門
3. 専門分野：固体地球惑星物理学
4. 担当予定授業科目：「地球惑星物理学実験」，「地球惑星物理学演習Ⅰ・Ⅱ」
5. 応募資格：博士の学位を有する女性研究者。
 - (1) 研究者としての経験（ポスドクを含む）を有する者。（本プログラムの規定により博士課程在籍者は応募できません。）
 - (2) 公募する研究分野に関して熱心な研究・教育意欲を有する研究者。
 - (3) 採用後、重複して他の研究機関・企業等に所属しな

いこと。

- (4) 本プログラムの規定により本学に在籍している女性教員(学術研究員・特任教員等を除く)は、応募できません。
6. 採用予定日:平成21年11月1日以降できるだけ早い時期
(本部門では教員の任期制は導入しておりません。)
7. 待遇
給与・保険:年齢,経験等に基づき本学の関係規程により決定します。
8. 研究費・部局における待遇等
理学研究院では本公募で採用された女性教員が専門分野の教育研究で力を発揮していただくことはもちろんですが,その教育研究活動が女子学生・女子院生が研究者への道を選択する指針となることを期待し,研究者支援を行います。
- ・産休・育児休業の期間は任期制の期間に含まれません。
 - ・RAやTAの優先採用など,育児休業を取得しやすい環境を作ります。
 - ・本プログラムのスタートアップ経費では対応できない研究室の什器等については,研究院長裁量経費等による措置が可能です。
 - ・在職期間中に1年以内の海外研修を申請することが可能です。
9. 本公募で採用された教員に対する支援制度については,大学全体の公募要領をご確認下さい。
http://www.srp.kyushu-u.ac.jp/wrp_home/j_top.html
なお本公募により採用された教員は採用後2年以内に国際学会にて発表することが望まれます。また採用後3年以内に国際誌に投稿することを義務づけます。
10. 提出書類:それぞれ正本1通,写1通をご提出下さい。
- (1) 履歴書(写真貼付)
 - (2) 業績目録
 - (3) 学術論文の別刷(主要なもの3編以内,コピー可)
 - (4) 現在までの研究内容の要約(A4用紙1~2枚程度)
 - (5) 着任後の研究と教育に関する抱負(A4用紙1~2枚程度)
 - (6) 応募者の研究内容等につき照会が可能な者2名の氏名と連絡先
11. 本公募に関する問い合わせ先
九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門
佐野弘好 電話番号:092-642-2606
e-mail: sanogeo.kyushu-u.ac.jp
12. 書類送付先

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

九州大学 大学院理学研究院 地球惑星科学部門

佐野弘好宛

(封筒に「教員応募書類」と朱書の上,必ず郵便書留にて送付のこと)

13. 応募締切:平成21年8月31日(月) 17:00 必着

14. その他

- (1) 応募書類は返却しません。
- (2) 理学研究院における一次審査では,面接審査を行う場合があります。
- (3) 研究戦略委員会における二次審査では面接審査を行います(10月中旬を予定)。その際の交通費は自己負担とします。ただし,外国に在住する者にとっては,日程を調整する場合があります。
- (4) 本学の男女共同参画推進及び女性研究者支援に関する取組については下記 Web サイト等でご確認下さい。
男女共同参画推進室: <http://www.kyushu-u.ac.jp/university/office/danjyo/index.html>
女性研究者支援室: <http://sofre.kyushu-u.ac.jp/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月13日送信しました)

○研究員の募集

【神奈川県温泉地学研究所】

神奈川県温泉地学研究所では,箱根火山の熱的・化学的モデル構築による火山活動評価をテーマに研究を進めていただく,特別研究員を募集しております。詳しくは下記のページをご覧ください。

http://www.onken.odawara.kanagawa.jp/modules/x_info/article.php?articleid=39

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月10日送信しました)

○研究官公募

【気象庁気象研究所】

1. 職名・人員:地震火山研究部 研究官1名

国家公務員研究職への採用

2. 応募資格:

- (1) 博士の学位を有する方(取得見込みの方を含む)
- (2) 火山物理学の専門家で,特に火山性地殻変動に関する観測手法に通じている方
- (3) 火山の地殻変動モデル解析及び物理過程のモデリングについて相当の知見を有する方

3. 公募締切:平成21年8月17日(月) 必着

4. 提出書類:

- (1) 履歴書(市販の用紙可.写真貼付) 1通

- (2) 学位取得（見込）証明書 1通
 - (3) 主要研究業績一覧表（論文，著書，解説）1通
 - (4) 主要論文の別刷り（5編以内，複写可）各1通
 - (5) これまでの研究内容と今後の研究の抱負（3,000字程度）1通
 - 5. 書類提出先及び照会先：
 - 〒305-0052 つくば市長峰 1-1
 - 気象研究所総務部総務課人事係 吉田
 - Tel : 029-853-8555（直通）
 - Fax : 029-853-8549（総務課）
 - （提出書類は封筒の表に「地震火山研究部研究官応募書類在中」と朱書き，書留で送付のこと）
 - 6. 選考方法：気象研究所選考採用委員会による書類審査（第1次）及び面接（第2次）を経て，採用を決定する。
 - 7. 採否の通知：書面により応募者あてに通知する。
 - 8. 採用時期：平成21年10月1日（予定）
 - 9. 備考：研究官の職は大学における助教ポストに相当。任期付きではない。
- （上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月28日送信しました）

○技術職員の公募

【東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター】

- 1. 募集人員：技術職員1名
- 2. 所 属：東北大学総合技術部
- 3. 勤務場所：大学院理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター
- 4. 職務内容：地震予知や火山噴火予知の基礎研究のために必要な，地震，地殻変動などの高精度データの取得や蓄積を目的とした観測機器の設置，維持管理・保守，および観測機器の改良・開発における技術支援など。年間数十日程度の陸上もしくは海上での野外活動・作業が含まれる。また，コンピューターを用いた観測データの1次処理事業など。
- 5. 応募資格：4年制大学理工学系学部卒業以上で，観測・計測あるいは計測機器に関連する職務経験を少なくとも3年程度以上有すること。ただし，大学院等における研究歴も資格要件の職務経験に含む。
- 6. 着任時期：平成21年10月1日以降のできるだけ早い時期。
- 7. 提出書類：
 - (1) 履歴書
 - (2) 職務内容調書（大学卒業後の職務の内容をわかりやすく説明したもの。A4用紙2枚以内で様式は自由。）

- (3) 着任後の業務に対する計画・抱負（A4用紙2枚以内）
- 8. 応募締切：平成21年9月1日（火）必着
 - 紛失事故を避けるため，必ず書留で郵送して下さい。封筒には「技術職員応募書類」と朱書きして下さい。応募書類は返却しません。
- 9. 書類提出先：〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター センター長 海野徳仁
 - 電話：022-225-1950 FAX：022-264-3292
 - E-mail：umino@aob.geophys.tohoku.ac.jp
- 10. その他：東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センターについては，下記のホームページを参照して下さい。
 - <http://www.aob.geophys.tohoku.ac.jp>
 - （上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月29日送信しました）

○博士研究員（PD）・COE 助教の募集

【東北大学大学院理学研究科】

1. 募集対象分野：地震・火山研究

一般職の非常勤職員（COE 研究員または COE 助教）として東北大学グローバル COE プログラム「変動地球惑星学の統合教育研究拠点」に参加し，下記の研究課題について事業推進担当者と協力して研究を行なえる方。特に研究を進めるにあたって理学・工学等の連携など幅広い視野から，研究を推進できる人材を求めます。

COE 助教は，研究に取り組むとともに，COE の先端地球惑星科学拠点大学院コース等に関連する実験・実習等をお願いします。

地震・火山研究グループでは，下記の研究テーマを積極的に推進できる方を募集します。

火山噴火ダイナミクスや火山活動に伴う諸現象のメカニズム解明に意欲があり，モデリング，地球物理学的観測研究，実験研究などの素養がある方。

- 2. 応募資格：すでに博士の学位を有すること。
- 3. 採用予定人数：1名
- 4. 採用予定年月日：平成21年10月1日からのできるだけ早い時期（応相談）
- 5. 任期：2年（審査のうえ延長可）
- 6. 給与：月額30～40万円程度（総支給額，ボーナス含む）
- 7. 提出書類
 - (1) 履歴書，研究歴および論文リスト（査読付きとそれ

以外とに分ける)

- (2) 研究計画書 (貢献できると考える研究内容を 2000 字程度)
- (3) 応募に関して選考委員会が照会できる方 2 名の名前と連絡先 (メールアドレス)
- (4) 主要論文の別刷またはコピー 3 編以内

8. 送付先

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

東北大学大学院理学研究科

グローバル COE「地球惑星科学」事務室 日下房子宛

TEL & FAX : 022-795-6668

E-mail : jimmu@gcoe.es.tohoku.ac.jp

*封筒の表に「GCOE 地球惑星科学 研究員・固体地球研究グループ 応募書類在中」と朱記の上, 簡易書留でお送りください。応募書類は原則として返却しません。

9. 締め切り : 平成 21 年 8 月 31 日 (月) 必着

10. 問い合わせ先 :

<公募手続きならびに処遇について>

東北大学大学院理学研究科 グローバル COE 地球惑星科学事務室 日下房子

TEL & FAX : 022-795-6668

E-mail : jimmu@gcoe.es.tohoku.ac.jp

<研究計画等について>

東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻固定地球物理学講座

佐藤春夫 (グローバル COE 地球惑星科学・地震火山研究グループリーダー)

TEL & FAX : 022-795-6531

E-mail : sato@zisin.geophys.tohoku.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 7 月 31 日送信しました)

【東京工業大学大学院理工学研究科】

1. 募集人員 : 特任助教, 1 名

任 期 : 2014 年 3 月 31 日まで

専門分野 : 地殻流体ダイナミクス

- (1) 地殻流体のダイナミクスを物質科学的に制約する研究を行う方。特に, 火山・温泉・鉱床などの調査・採取試料から化学・同位体解析により研究を行う方。
- (2) 分析装置の立ち上げ, 運用に積極的に取り組んで頂ける方。

採用後は東京工業大学地球惑星科学専攻の一員として, 関連分野の大学院・学部教育にも携わって頂きます。

2. 応募資格 : 博士の学位を有する者

3. 着任時期 : 採用決定後, できるだけ早い時期

4. 提出書類 :

- (1) 履歴書
- (2) 研究・教育に関する実績と今後の計画・抱負 (1,000 字程度)
- (3) 研究業績リスト

A. 査読付き原著論文

B. プロシーディングス, 総説など

C. 著書, その他特記すべき出版物

(注) A, B, C いずれも和文のものは和文名で表記すること。

(4) 主な原著論文の別刷 (コピー可) 2 編以内

(5) 応募者について参考意見をうかがえる方 (2 名) の氏名および連絡先 (所属, E-mail)

(6) 応募書類は返却いたしません。こちらで責任を持って処分させていただきます。

5. 応募締め切り : 2009 年 8 月 21 日 (金) 必着

「宅配便」にて送付願います。

6. 応募書類の送付先 :

〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻 (I2-20)

石川台 2 号館 209 号室気付 高橋栄一

Tel : 03-5734-2339

7. 問い合わせ先 : 高橋栄一

E-mail : etakahas@geo.titech.ac.jp

Tel : 03-5734-2338

8. 地球惑星科学専攻教員等については専攻ホームページをご覧ください。

<http://www.geo.titech.ac.jp>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 7 月 31 日送信しました)

【北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター】

1. 職名・人員 : 非常勤研究員・1 名

2. 募集専門分野 : 地震学・火山学・その基礎となる分野

3. 応募資格 :

- (1) 採用時に博士の学位があること
- (2) 採用年度の 4 月 1 日現在で 35 歳未満
4. 任用期間 : 原則として採用日から 3 年間。ただし契約は 1 年度毎に更新。

5. 着任時期 : 決定後できるだけ早い時期

6. 報酬 : 学歴によるが月額約 30 万円

(短時間勤務職員として採用するために社会保険関係は適用されません)

7. 研究費：研究員には研究費を手当てします（平成21年度の場合年間約62万円）

8. 応募書類：

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績一覧（査読つき論文、査読なし論文、その他、著書、報告書等で特に参考になるもの等）
- (3) 研究の計画と抱負（A4紙1枚程度）

応募書類は個人情報保護に留意して取り扱いいます。返却は致しません。

9. 応募の締め切り：2009年8月31日（月）必着

10. 書類の提出先および問合せ先：

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
北海道大学大学院理学研究院
附属地震火山研究観測センター 村上 亮
TEL：011-706-2643（代表）/
FAX：011-746-7404（代表）
Email：mccopy_mm@mail.sci.hokudai.ac.jp

「非常勤研究員応募書類」と朱書の上、書留にて送付してください。

11. 当センターの概要は以下のホームページをご覧ください。

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/grp/isv/isv-web/>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月3日送信しました）

○ベトナム、インドネシアの交換留学、大学院生の募集【熊本大学】

熊本大学大学院自然科学研究科では今年10月に来日し、3ヶ月・6ヶ月・1年間滞在を希望する環境およびエネルギー分野の交換留学生を募集しています。

プログラムの対象となる留学生は、ベトナムもしくはインドネシア国籍で、自国の大学院の正規課程に在籍し、留学終了後在籍大学に戻り、学業を継続する者又大学の学位を修得する者です。奨学金13万円/月、渡日一時金26万円が支給されます。本プログラムの奨学生として推薦されれば、授業料相当額が日本学生支援機構から支給されます。

問い合わせ先

〒860-8555 熊本市黒髪2-39-1
熊本大学大学院 自然科学研究科 理学専攻
地球環境科学講座 長谷中利昭
TEL 096-342-3454 FAX 096-342-3411
E-mail：hasenaka@sci.kumamoto-u.ac.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月7日送信しました）

○2009年度「信州フィールド科学賞」候補者募集【信州大学山岳科学総合研究所】

1. 賞の趣旨

信州大学山岳科学総合研究所は、山岳科学研究のセンターとなることを目指して設立されました。山岳科学研究はフィールド・ワークが基本です。多くの若手研究者が「山」のフィールド・ワークに参画する契機となり、フィールド・ワークをやり遂げた達成感を味わうことが出来るようにとの願いを込め、さらには高校生・大学生の山岳地域における調査・研究を奨励することから、「信州フィールド科学賞」および「信州フィールド科学奨励賞」を創設しました。

2. 募集対象

- ・「信州フィールド科学賞」
山岳地域におけるフィールド・ワークを基本として研究している若手研究者（2009年度末で35才以下）を対象とします。研究対象や分野は問いません。
- ・「信州フィールド科学奨励賞」
Ⅰ種：陸域の自然・文化を対象にフィールド・ワークを行っている高校生を対象。
Ⅱ種：「山」におけるフィールド・ワークに基づいてまとめられた大学等の（過去3年間に提出された）卒業論文を対象。

3. 受賞

- ・「信州フィールド科学賞」：受賞者は毎年度1名とします。信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞20万円を贈呈します。
- ・「信州フィールド科学奨励賞」：受賞者は毎年度Ⅰ種：1件、Ⅱ種：1名とします。それぞれに、信州大学山岳科学総合研究所長名の賞状および副賞10万円を贈呈します。

4. 募集期間 2009年4月1日～7月31日

5. 応募方法

応募の書式は山岳科学総合研究所のWebサイト「<http://ims.shinshu-u.ac.jp>」からダウンロードしてください。

- ・「信州フィールド科学賞」
自薦を基本とし、応募の際に必要なとする書類は、山岳地域におけるフィールド・ワークの実績・今後の展開と「山岳科学」での研究の位置づけなどを2000字程度（A4用紙で2枚以内）にまとめた調査書、研究業績調査書（口頭発表を含む）及び論文等の別刷です。
- ・「信州フィールド科学奨励賞」
Ⅰ種（高校生）：応募の際に必要なとする書類は、活動実績を示す調査書、調査活動によって得られた成

果をまとめたもの及び所属高校長の推薦書です。
 II種（卒業論文）：応募の際に必要な書類は、「山」におけるフィールド・ワークの実績と卒業論文の要旨を2000字程度（A4用紙で2枚以内）にまとめた調書、卒業論文のコピー及び指導教員による推薦書です。

6. 選考方法

応募者のなかから受賞候補者を選考委員会が選考し、山岳科学総合研究所運営委員会の議を経て、山岳科学総合研究所長が受賞者を決定します。

7. 授賞式

授賞式は2009年11月7日（土）に松本市で行い、受賞者の講演及び受賞者の研究分野に関連する内容のシンポジウムを併せて実施します。

8. 応募書類の送付先および問い合わせ先

応募書類は郵送または持参するとともに、電子ファイルとなっている調書等についてはメールへの添付書類でもお送り下さい。郵送の場合は、2009年7月31日必着。

信州大学山岳科学総合研究所運営支援チーム

〒390-8621 松本市旭3-1-1

電話：0263-37-2432 FAX：0263-37-2438

e-mail：suims@shinshu-u.ac.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月11日送信しました）

○第30回猿橋賞の推薦の募集

【女性科学者に明るい未来をの会】

1. 対象：推薦締切日に50才未満で、自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めている女性科学者
2. 表彰内容：賞状、副賞として賞金30万円、1件（1名）
3. 応募方法：当会のホームページ <http://www.saruhashi.net/> から推薦書類をダウンロードし、A4用紙に印刷して、①推薦者（個人・団体、自薦も可）・受賞候補者の略歴、②推薦対象となる研究題目・推薦理由（800字程度）、及び③研究題目に関連する主な業績リスト（指定は1頁です。やむを得ない場合でも追加は1頁までです）を記入して、主な論文別刷10編程度（2部ずつ、コピーも可）を添え、5)の推薦書類送付先までお送り下さい。
4. 応募締切：2009年11月30日
5. 推薦書類送付先：〒247-0022 横浜市栄区庄戸5-14-3 女性科学者に明るい未来をの会
 （封筒には、「猿橋賞推薦書類」と明記して下さい。書類は、猿橋賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。書類は返却いたしませんのでご了承下さい）

さい）なお、この件についての問い合わせは、下記に電子メールでお願いいたします。

saruhashi2010@saruhashi.net

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月22日送信しました）

○「朝日賞」候補者推薦のお願い

【朝日新聞文化財団】

「朝日賞」は、1929（昭和4）年に朝日新聞社が創刊50周年を記念して創設したものです。人文や自然科学など、わが国のさまざまな分野において傑出した業績をあげ、文化、社会の発展、向上に多大な貢献をされた個人または団体にお贈りしております。広く各界の皆様から候補者のご推薦を頂戴したあと、さらに幅広くご意見を伺ったうえ、朝日賞選考委員会で慎重に審議し、受賞者を決定いたします。」会員の方で、推薦する方がございましたら、8月20日までに日本火山学会事務局にお知らせください。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月15日送信しました）

○海底地形名称の提案募集

【海上保安庁】

海上保安庁では、海図や海底地形図などに記載する海底地形の名称を決定する「海底地形の名称に関する検討会」を随時開催しています。

提案地名がある場合は、以下の問い合わせ先にご連絡いただければ提案書を送付致します。提案期限は随時とし、今回の検討会（平成21年7月6日）に間に合わない場合は次回検討会に提案いたします。

（問い合わせ先）

海上保安庁海洋情報部航海情報課

主任海図編集官 細萱（ほそがや） 泉

電話 03-3541-4201 FAX 03-3541-4388

なお、同検討会で決められた海底地形名は、海上保安庁海洋情報部のホームページで紹介しております。

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KOKAI/ZUSHI3/topographic/topographic.htm>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月22日送信しました）

○平成22年度研究船利用公募課題の募集

【独立行政法人海洋研究開発機構】

「海と地球の研究5ヶ年指針」（平成20年2月制定）に基づく研究の推進を行うため、所有する研究船「みらい」、「なつしま」、「よこすか」、「かいらい」等を利用す

る課題を募集いたします。募集期間は6月25日(木)～7月20日(月)までの約1ヶ月間です。

詳しくはウェブサイト (http://www.jamstec.go.jp/jamstec-j/maritec/2010_koubo/) をご覧ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月26日送信しました)

○宇宙利用促進調整委託費の公募

【文部科学省研究開発局】

この度、文部科学省にて、衛星利用の裾野の拡大を図るために、産学官の英知を幅広く活用して人工衛星に係る潜在的なユーザーや利用形態の開拓等を推進する新たな仕組みとしてこの度、「宇宙利用促進調整委託費」を創設いたしました。

(詳細は以下の URL をご参照下さい。)

http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1279888.htm

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月8日送信しました)

○「課題解決型サービス科学・工学研究開発事業」に関するご意見・ご提案、及び研究課題(プロジェクト)案のアイデア募集について

【(独)科学技術振興機構】

1. 募集内容

科学技術振興機構では、現場の具体的なニーズを抽出、実データを利用しつつ、関連要素技術、学問を有機的に統合、融合させながら、異分野融合型(自然科学と人文・社会科学等)のアプローチで、問題解決のための技術・方法論の開発(質・効率の向上と新しい価値の拡大)、さらに横断的なサービス科学・工学の基盤構築を目指した研究開発を「課題解決型サービス科学・工学研究開発事業：NEXER; NEeds oriented Service Science and Engineering Research」と位置付け、その可能性・方向性を検討しています。

この検討の一環として、事業そのものについてのご意見・ご提案と、事業の中で実施する研究課題(プロジェクト)案のアイデアを、皆様より募集いたします。

この研究課題(プロジェクト)案のアイデア募集については、A. 個別課題解決型研究、B. 横断的研究の2タイプの研究を対象に実施します。頂いたアイデアの中から各々数件～10件程度を選び、実際の研究プロジェクトとして実施するための要件等、より具体的な深掘り調査を行って頂く場合があります。その際、深掘り調査費として1件あたり数十万円(100万

円未満、期間：2ヶ月以内)の経費を支援する予定です。その際は、JSTよりご連絡しますので、ぜひ、ご協力下さい。

2. 募集期間：平成21年7月27日～8月31日14時まで

詳細につきましては、募集要領をご覧ください。(以下のホームページよりダウンロード可能です。)

<http://www.the-convention.co.jp/nexer-koubo/>

3. 問い合わせ先

(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター 企画運営室

TEL：03-5214-0132

E-mail：nexer_contact@ristex.jp

担当：川原、小泉、衣笠

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月28日送信しました)

○2009年日本火山学会秋季大会

2009年秋季大会は、神奈川県小田原市の県立生命の星・地球博物館で開催されます。詳細は最新の情報は大会ホームページをご覧ください。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/kazan2009/index.html>

1. 期日：2009年10月10日(土)～12日(月・祝日)

2. 講演会場：神奈川県立生命の星・地球博物館

(〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499)

(<http://nh.kanagawa-museum.jp/info/traffic/index.html>)

3. 参加料(講演予稿集込み)

会員(維持・学術・一般)：2,000円、会員(学生・満70歳以上)：1,000円、非会員：4,000円

※予稿集のみの販売も同額になります。学会事務局にお申し込みください。発行は9月中旬の予定。

※学部学生・高校生等の参加料は無料、予稿集は別途購ください(1,000円)。

4. 講演申し込み・予稿集原稿提出

http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/2009_fallmeeting_application.html

講演申込締切：

郵送の場合(学会事務局着)

8月6日(木)

Web登録、予稿集PDFメール送信の場合

8月20日(木)午後4時

5. 秋季大会連絡先

〒250-0031 小田原市入生田 586

神奈川県温泉地学研究所内 萬年一剛

E-mail：kazan-taikai@ymail.plala.or.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月7日送信しました)

○2009年日本火山学会秋季大会におけるシンポジウム・公開講座のお知らせ

10月10～12日に小田原市で開催される秋季大会に関連して以下のシンポジウムや公開講座等が企画されていますのでご参加ください。なお、最新の情報は大会ホームページをご覧ください。http://www.soc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/kazan2009/index.html

1. 「火山防災シンポジウム—あすの火山防災を考える—」

主催：日本火山学会

共催：神奈川県立生命の星・地球博物館，神奈川県温泉地学研究所

日時：10月9日（金曜日）13時30分-17時30分

場所：神奈川県立生命の星・地球博物館ミュージアムシアター

参加費無料。参加申込は不要ですが、当日は16時まで（博物館の入館時間内）にご入場ください。

内容：2007年12月から気象庁は火山現象について予報及び警報を行なうことになり、活火山地域に噴火警戒レベルが導入されつつあります。噴火活動の規模が大きくなるにつれて噴火警戒レベルが高くなり、レベル4や5が発表される例として、めったに起きない大規模噴火があります。100年～数100年に1回という低頻度の大規模噴火に対応するには、中～小規模噴火に対する場合とは異質の対策が必要となります。このシンポジウムでは第一部で箱根火山の成り立ち、活動現況、さらに防災対策について紹介します。また、第二部でわが国の過去の大規模噴火の事例紹介、さらに大規模噴火での火山防災のあり方について、研究者、防災関係者、行政、市民による自由な討論の場で探っていきます。防災関係者、一般市民の皆様も積極的にご参加ください。

プログラム：

第一部 13：30-15：00

「箱根火山防災はどう変わった—噴火警戒レベル導入を通して—」

座長：藤田英輔（防災科学技術研究所）・
中村洋一（宇都宮大学）

(1) 箱根火山の噴火の歴史と構造

萬年一剛（県温泉地学研究所 主任研究員）

(2) 最近の箱根火山の活動

棚田俊收（県温泉地学研究所 主任研究員）

(3) 噴火警戒レベル

石垣祐三（横浜地方気象台 火山防災官）

(4) 箱根町の防災対策（噴火警戒レベルへの対応）

勝保 敏（箱根町 防災対策課長）

(5) 県の火山防災対策（観測体制、情報発信など）

杉原 英和（県温泉地学研究所 企画調整担当部長）

第二部 15：10-17：30

「大規模噴火時における広域火山防災のあり方」

座長：中村洋一・藤田英輔

事例紹介：

「北海道駒ヶ岳」

吉本充宏（北海道大学理学部助教）

「桜島」

石原和弘

（京都大学防災研究所教授・日本火山学会会長）

「大規模噴火防災とは何か」

荒牧重雄

（東京大学名誉教授・山梨県環境科学研究所長）

パネルディスカッション

「大規模噴火時における広域火山防災のあり方」

(1) 火山防災体制の現況（自己紹介と組織での防災体制の取り組み状況など）

(2) 噴火警戒レベル導入とその対応（検討導入結果など、地域防災体制への対応など）

(3) 大規模噴火での防災体制（レベル4と5での対応防災体制など）

(4) あすへの火山防災体制のあり方（イベントツリーとシナリオ、確率論的防災体制、リスク評価など）

パネリスト：石原和弘（京都大学教授），荒牧重雄（東京大学名誉教授），大塚弘美（内閣府），佐藤一幸（国土交通省），斎藤 誠（気象庁），杉原英和（温泉地学研究所）

問い合わせ先：日本火山学会 火山防災委員会

中村洋一（宇都宮大）

E-mail：ynakamu@cc.utsunomiya-u.ac.jp

2. 日本火山学会第16回公開講座「火山学者と火山を作ろう！ in 箱根・小田原」

主催：日本火山学会

共催：神奈川県立生命の星・地球博物館，神奈川県温泉地学研究所

日時：10月10-11日（土曜日・日曜日）14時00分-16時

会場：神奈川県温泉地学研究所 2階 会議室

(http://www.onken.odawara.kanagawa.jp/modules/t_syukai1/index.php?id=6)

参加費無料・要事前受付

内容：火山学者と一般の方が、食材などを用いた「ミニ火山」を作りながら、火山のでき方や噴火についての疑問に答えていきます。

問い合わせ先：2009 年度秋季大会実行委員会

E-mail：kazan@onken.odawara.kanagawa.jp

3. 火山学会秋季大会開催記念講演会「火山と私たちの暮らし」

主催：日本火山学会

共催：神奈川県立生命の星・地球博物館，神奈川県温泉地学研究所

日時：10月12日（月曜日・祝日） 13時15分～15時30分

会場：神奈川県立生命の星・地球博物館ミュージアムシアター

参加費無料

内容：「火山はなぜ噴火するか」「箱根火山はこれからどうなるのか」など、 私たちに意外に身近な火山の素顔を解き明かしていきます。

問い合わせ先：2009 年度秋季大会実行委員会

E-mail：kazan@onken.odawara.kanagawa.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月7日及び8月11日に日送信しました）

4. 現地討論会

10月10～12日の秋季大会（小田原市）に関連し、今年には2コースの現地討論会が開催されます。参加希望者はお早めにお申し込みください。コースにより受付方法が違いますのでご注意ください。

(1) A コース：箱根火山

日 程：10月12日（月）16：00～14日（水）15：00

集 合：10月12日16：00 神奈川県立生命の星・地球博物館地下駐車場

コース：大観山，大涌谷（砂防工事と最近の噴火），宮ノ下（カルデラ東縁の断層），芦之湯（東京軽石以降の堆積物），須雲川沿いの溶岩-テフラ層序関係の観察，など

定 員：28人（2泊3日貸切バスで移動）

参加費：26,000円（交通費・資料費。参加費は変更の可能性あります。）

参加申込者には別途，送金方法と送金先をお知らせします。

案内者：高橋正樹・小林淳・萬年一剛

申込締切：9月1日（火）ただし定員になり次第締め切ります。

申込先：（申込はE-mail, Fax, または郵便で）

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 586
神奈川県温泉地学研究所 萬年一剛

E-mail：mannen@onken.odawara.kanagawa.jp

Tel：0465-23-3588, Fax：0465-23-3589

(2) B コース：三宅島火山

日 程：10月12日（月）～14日（水）

集 合：10月12日（月）

21：30 東京竹芝客船ターミナル

22：30 発の東海汽船の大型船で三宅島へ渡ります。

解 散：10月14日（水）20：30 着の東海汽船で東京竹芝客船ターミナルに到着

コース：七島展望台（雄山観察・伊豆諸島遠望）

村宮牧場（2000年噴石，“低温火砕流”堆積物観察）

笠地ダム（砂防ダム観察），伊豆岬（最近1万年間の噴出物）

椎取神社（泥流に埋まった鳥居），赤場暁（1962年溶岩流，泥流，砂防ダム），三七山展望台（1962年三七山噴出物観）

大路池（マール），鉄砲場展望台（阿古1983年溶岩流俯瞰溶岩流下の自動車の観察），旧阿古小・中跡（1983年溶岩流）三宅村郷土資料館など。

定 員：60人（貸切バスで移動）

参加費：40,800円～64,300円。

案内者・世話人：津久井雅志・川邊禎久・笹井洋一，新堀賢志，前野 深，金子隆之，中田節也
申込締切：9月10日（木）ただし定員になり次第締め切ります。

申込用紙：http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/kazan2009/miyakejima_fx.pdf

申込用紙に必要事項を記入の上，KNTへFAXまたはメールで送付，また代金を振り込んで下さい。

問い合わせ先：東京大学地震研究所 金子隆之

E-mail：kaneko@eri.u-tokyo.ac.jp

事前説明会：巡検に先行して事前説明会を開きます。三宅島の地質や2000年噴火について各分野の専門家に解説していただきます。

（津久井，新堀，風早，大湊，川邊，笹井の諸氏を予定）。

日 時：10月12日（月）13：30～15：30

場 所：B会場

詳細は以下をご覧ください。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/kazan2009/>

miyakejima_fx.pdf

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月29日に送信しました)